

映画『ひろしま』

—約8万8千人の市民が参加した幻の映画—

1953年 / 104分

監督:関川秀雄 脚色:八木保太郎 原作:長田新
撮影:宮島義勇 美術:平川透徹 音楽:伊福部昭
出演:月丘夢路 岡田英次 加藤嘉 山田五十鈴
原保美 利根はる恵
提供:独立プロ名画保存会



幻の映画『ひろしま』とは

長田新が編纂した文集『原爆の子～広島の子
少女のうたえ』(岩波書店、1951年)を八木
保太郎が脚色。原爆投下の8年後に教職員組合
と広島市民の全面協力によって制作された。

実際に被爆した市民など約8万8千人がエキス
トラとして参加したが、大手配給会社から上映を
拒否され、「幻の映画」と言われる。教職員組合が
協力しているため、劇中に子どもや教員が多数
登場する。

日本政府が核兵器禁止条約への参加に背を
向け、国会で改憲の動きが強まっている中、世界
各地で上映され、注目を集めている『ひろしま』を
通して、なぜ憲法が大事なのかを考えます。

主催

大阪教職員組合(大教組)

TEL: 06-6768-2330

E-mail: daikyoso@daikyoso.jp

2026(土)

7.25

13:30-16:40

憲法・平和を考える 夏のオープンイベント

会場 たかつガーデン8階「たかつ東中」

アクセス:近鉄大阪上本町駅から徒歩5分/大阪メトロ谷町九丁目駅から徒歩10分

時間 13:30-16:40 13:15開場

参加費無料

どなたでも参加できます

講演

戦後の教職員は なぜ戦争に反対してきたのか

『ひろしま』がつくられたことに示される当時の教職員の
平和への思いから、なぜ憲法や平和の問題に教職員がとり
くんできたのかをお話いただけます。

やまぐちたかし

山口 隆さん

元・全日本教職員組合中央執行委員長
大阪教育文化センター代表

講演ゲスト



東大阪市立小学校教諭を経て、1995年から大阪
教職員組合役員、全日本教職員組合中央執行委
員長を歴任。論稿やインタビューに「子どもたち
の学習する権利を守るために 一斉休校を経て
見えてきたこと」(2020年)、「教職員組合運動と
国民の教育権」(2010年)、「いま、教師が力をつ
けるために何が必要か」(2008年)など。